

モダンフィッティング

モダンフィッティングの考え方は、テンプルフィッティングからの流れからになりますので、合わせて考えなくてははいけません。原則は、顔側面のテンプルが最初に触った箇所から、モダンエンドまでを、均一な圧力で触り、耳介の付け根にトレースするだけです。

●落ち込み角

耳介の付け根の頂点に位置する場所に、モダンの屈折点を作り、そこから先は、その付け根の形状をトレースしながら落ち込み角を作ります。耳介の付け根は、付け根頂点から1～2センチは斜めですが直線的に降りています。その部分がフィッティングポイントになります。あまり難しい事は考えずに、その形のままだにトレースすれば良いのです。

●抱え込み角

テンプル＝モダン部分が、顔の側面に最初に触るファーストタッチから、モダンエンドまで同じ圧力触っているようにします。その時は、決して圧力をかけるイメージを持つてはいけません。(圧力はかかりますが) 圧力をかけるとか押さえるというイメージで合わせてしまうと、たいがい必要以上の圧力をかけてしまうものです。触っているだけ・・・のイメージで抱え込む形を作ります。必要以上の、抱え込む圧力はストレスになりやすいのです。耳介の付け根から後頭部方向は、つぼまっています。モダンは必ず内側方向へ向かいます。

●形状

耳介の付け根の凹凸は、1人1人違い個性的です。特に、モダンエンド付近には乳様突起と呼ばれる膨らみがあるので、その部分は特に気を付けましょう。

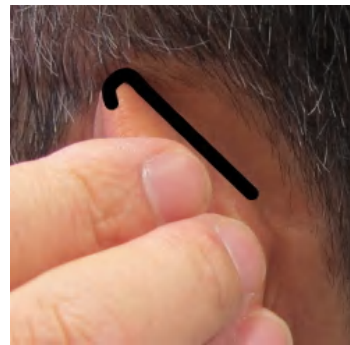
この3つの効果で、フレームフロントのズリ下がりを防ぎます。モダンフィッティングの注意点は、耳介の付け根の形を見極めることに慣れが必要です。

★落ち込み角の考え方

耳介全体を、人差し指～薬指の3本の指で、やさしく軽くめくります。



メガネを顔に掛けて、モダンと耳介の付け根を観察します。×印の部分は直線的に斜めに降りてきていますので、ここがフィッティングポイントです。



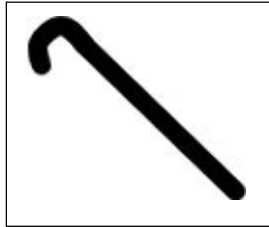
モダンも当然その部分は直線的になります。さらに、他人によっては乳様突起と呼ばれる骨の一部がモダンエンド付近に凸しているのです、その点は注意が必要です。

では、実際に、フレームを顔に乗せてみます。

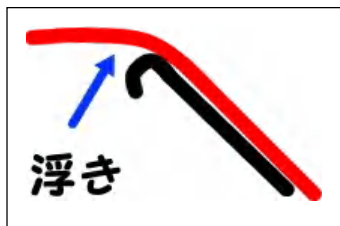


モダンと耳介の付け根のラインが白い線で、赤の矢印が屈折点を作る場所です。

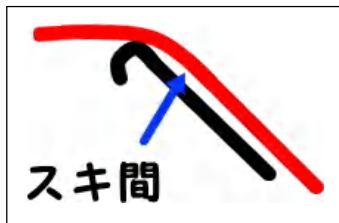
★屈折点の必要性を考えてみましょう。
先ほどの黒い線が耳介の付け根だと思ってください。
屈折点から、斜め下に直線的に下がっていきます。個人差はありますが、だいたい2センチ程度の人が多い様な気がします。



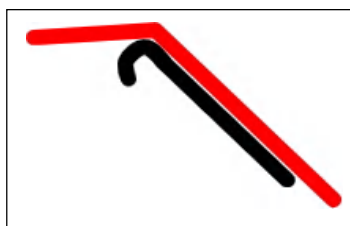
このラインに、屈折点の無いダラダラしたカーブのモダンを当ててみると、耳介の頂点付近が浮いてしまいます。前に重さが掛るとズルズルとずれてしまいます。



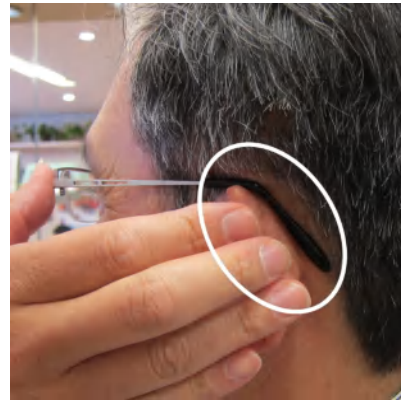
浮きを無くそうと思うと、屈折点モドキをモダン先に移動すると、今度はスキ間が出来てユルユルになってしまいます。いずれにしても良いフィッティングになりません。



屈折点のあるモダンを当てみると、耳介の頂点の浮きは無くなり、直線部分とモダンがしっかりと接地するので、摩擦が多く発生してズリ落ちにくくなるのです。



下の写真で仕上がりです。



未調整のゆるいカーブのモダン



ただひたすらダラダラとしているだけです。

屈折点のあるモダン



カクッと屈折点を作りますが、モダンのほとんどがプラスチック出来ていて、カクッとやるつもりで、実は、本当のカクッととはなりません。カーブの内側は、やや丸みを帯びてしまいます。実は、この丸みぐらいが耳介の付け根頂点との接地点が柔らかく触れるのではないかと思います。何か器具を使って、本当のカクッとやってしまうと、多分それはやりすぎでしょう。耳介の付け根頂点は、丸みを帯びていますので・・・